金曜日公開プログラム

神戸女学院大学　研究所主催講演会

アートってなに？

―博物館と美術館のあいだ―

私たちが絵や彫刻などを鑑賞するところは美術館や博物館である。
この施設は古くからミューゼアム（museum）とよばれている。18世紀以降、大英博物館、ルーブル美術館、メトロポリタン美術館、ケ・ブランリー美術館などが創設された。そして、美術館は欧米の天才が制作するアート（Art）を、民族学博物館は、非西欧の無名職人がつくる工芸品(Artifact)を展示するところとなっている。
ピカソは「アフリカの彫刻はミロのビーナスよりもっと美しい」と語り、その造形に刺激されて多くの絵を描いた。
しかし、アフリカやオセアニアの仮面や彫像などが美術館に展示されたのはつい最近。
どうして「民族芸術」はアートに仲間入りできないのだろうか。

2024年 10 月 18 日（金）

時　間　10：35～11：25

会　場　神戸女学院
エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

参加費等　参加費無料、申込不要

問合せ先　神戸女学院大学 研究所
0798-51-8544

講　師

Sudo Kenichi
須藤 健一 氏
堺市博物館長

新潟県佐渡生れ。東京都立大学大学院修了後、1975年より国立民族学博物館、神戸大学国際文化学部を経て、2009年から2017年まで国立民族学博物館館長。現在堺市博物館長。
専門は、オセアニアの文化人類学、文学博士。
島育ちのせいか太平洋の島々への好奇心が強く、1974年から伝統航海術、人びとの暮らしと社会、資源の利用と保護、王国の民主化や海外移住などについて調査研究に励む。
主な著作に『母系社会の構造』（紀伊国屋書店）、『性の民族誌』（人文書院）、『オセアニアの人類学』（風響社）など。

後援：西宮市